

鎌倉市スマートシティ官民研究会の開催趣旨

＜＜背景＞＞

令和2年4月からスタートした「第4期基本計画実施計画重点事業」における今後6年間の事業工程

- ▼ 本市のスマートシティの構築に向けた方向性を定める構想を策定する（令和2年度、令和3年度）
- ▼ 構想の策定と並行し、市民の理解とまちづくりへの参画を促す取組を進める
- ▼ 各ステークホルダーとの共創関係による推進体制を整備する

＜＜目的＞＞

複雑・高度化する本市の社会課題に対して、行政だけの力で解決することは不可能

- ▼ 本市の課題解決に向けて、民間企業が持つテクノロジーの導入の可能性を広く議論することで
- ▼ 官民連携の取組を加速化させ、社会課題のスピーディーな解決を目指す
- ▼ 共創関係によるスマートシティ構築のためのプラットフォーム

スマートシティ 全体スケジュール・進捗状況

	令和2年度						令和3年度						スマートシティ構想策定	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		10月
市議会			定例会 進捗報告			定例会 進捗報告				定例会 進捗報告		定例会 進捗報告		
庁内 検討委員会		11/25 第2回				年度まとめ 第3回				第4回		「随時開催」		
部会	DX 観光・ 交通	構想の検討・策定									検討継続			
構想 策定	基本方針の検討・策定			構想の検討・策定									運用	
官民 研究会	10/13 第1回		本日 第2回	第3回			「随時開催」						「随時開催」	
市民 対話		11/18・21 第1回	第2回		第3回		第4回		「随時開催」					
大学等		11/24 SFC 協定	「随 時 連 携」									「随時連携」		

スマートシティ基本方針の骨子イメージ（素案）

Vision
将来像

共生みらい都市鎌倉の創造

市民一人一人が、お互いを尊重し合い、支え合い、
そして、多様性を認め、自らが望む形で社会との関わりを持つことで
誰もが生涯にわたって、自分らしく安心して暮らすことのできる共生社会を築きます

Mission
使 命

誰一人取り残さないために

共生みらい都市かまぐらの実現に向けて
誰一人取り残さず、さらにあきらめていたことを実現するために
テクノロジーやデータを、あくまで「手段」として活用します

Value
価値観

大切な考え方

共創 協働 多様性 SDG s 持続可能性 自律分散型
公平性 包括性 透明性 鎌倉らしさ 日本人らしさ
人間らしさ 時空を超えてつながる社会
進化するコミュニティ 弾力性のある力強さ（レジリエンス）

スマートシティ官民研究会・スマートシティ市民対話の取組状況

官民研究会（第1回）

10月13日（火）

本市の課題解決に向けて、民間企業が持つテクノロジーの導入の可能性を広く検討する官民の共創関係によるプラットフォームを目指す研究会

市民対話（第1回）

11月18日（水）/21日（土）

市民が直面している日常の困り事や、理想とする未来の暮らし方について対話を通じて問題を共有し、解決策のヒントを共に考えていく場

官民研究会（第2回）

12月25日（本日）

第1回の開催での要望が多かった「観光・交通分野」に特化した課題を研究会に提示し、より具体的なソリューション実装の可能性を検討

「概要」

- ◆ 開催方式
オンライン会議（Teams）
- ◆ プログラム
 1. 市の課題の説明「本市の抱える社会課題とスマートシティに向けた取組の方向性について」
 2. 質疑応答
- ◆ 参加者数
約100社、150名程度
- ◆ ご意見・要望等
分科会を開催してほしい
課題についてデータに基づいた説明がほしい
実証実験を含め、課題解決への具体的な道筋が知りたい
オンライン開催を希望

「概要」

- ◆ 開催方式
オンライン会議（ZOOM）
- ◆ プログラム
 1. 市からの説明
（社会課題、スマートシティの必要性、基本方針素案）
 2. 自分や身の回りの人の困りごと
 3. スマートシティで実現したい理想の社会
- ◆ 参加者数
延73人

スマートシティ市民対話で出された意見①

テーマ	意見				
「スマート」から連想するもの	連動 冷静 予防予知 面倒でない 無駄のない 本来はずるがしこい 便利 品がある	白 大人から子供まで 早い 洗練されている 新しい 省力化 手軽 自動	効率的 スムーズ 賢い カッコいい 革新的 気楽 わかりやすい ものごとが繋がる	はやり、菅政権 なにかもはやい デジタル データ駆動スリムな シンプル くらしやすい カッコイイ お洒落	お高くとまっている Sustainable QOLの向上に貢献 I T、I C T インクルージョン スタイリッシュ エコ
こんなスマートシティは嫌だ	AIが台頭しすぎる IDやパスワードだらけ ICT利用を強制される インターフェースがバラバラ オンラインで全てが解決 コミュニティーがなくなる データで管理、監視される デジタルばかりシティ デジタル化なのに、手続きが面倒		なんでも新しく歴史や伝統を大切にしない ヒューマンスケールを外れること 会話がテキストになる 格差が広がるIT化 学者と行政が設計した理想的と称するスマートシティー 効率的な街になりすぎて自然が減る 幸せの度合いも管理される 高齢者の方が置いてけぼり 勝手に私の好みを決めないで	寝るだけの街、鎌倉 人のいないサービス 電源が切れたら何もできない恐怖 都市間格差が広がる 東京ばかりで、ローカルにお金が落ちない 視覚障害者など使えない人をどうするかの議論が必要 問題解決が人任せになる 隣の人の顔と名前すら知らない自宅環境 多様性と言いつつ、実は排他的	
自分や身の回りの人の困りごと	渋滞対策 免許返納後の移動手段 がけ崩れなど災害対策 障がい者を取り残さない 緑の保全と山の維持 道幅が狭い 公園の整備不足 WiFiの整備 オーバーツーリズム ゴミのリデュース 保育園の探し コロナでの交流制限 シニアにもわかりやすいUI		社会的弱者のデジタルデバйд対策 知られざる観光スポットの案内 ロードプライシング 買い物難民 ローカル情報不足 学校や家以外の第3の場所 格差 エネルギー 空き家 限られた地域資源をシェアで解決孤独問題 世代間のつながり 回覧板の電子化 地域課題のジブンゴト化	不寛容な社会 不登校児の学ぶ機会の充実 役所手続きのオンライン化 来訪者の避難 公共交通機関のバリアフリー化 職住近接 まちの才能が見える化し、まちの困りごとを解決 市民同士・世代間のコミュニケーション円滑化 地元の鎌倉らしい小さなお店を支援 市民と旅行者のバランス 市役所とのコミュニケーションの壁 街並み・景観の保全と高齢者の生活インフラ	

スマートシティ市民対話で出された意見②

テーマ	意見
スマートシティで実現したい理想の社会	IT技術ではなく、人がメインであるまち 技術はあくまで課題解決の手段 あらゆる世代の人が気軽につながれる仕組み オンラインとオンサイトの差を意識しない街 それぞれが出来ることで協力しあえるプラットフォームの創造 ムダが許される社会 ゆるいつながり コミュニティがある街 ゆるやかに変わり続けられる 格差を市内で廃止できるようにすること（せめて衣食住） 計算されたことだけでなく、偶然や驚きがある 行政と市民がフラットな街 今をなくすのではなく、手段のオプションが増える町 仕事と生活の両立、融合、境目のない生活 心と心をつなぐ ソフトウエア 誰も悲しくないまち 人が中心のまち 多くの第三の場所（サードプレイス）から学びを広げられるような街 多様性・好奇心・遊びごころを大切にしたい、寛容な町 ワクワクすること、楽しいことがある 電源が無くなった社会でも、幸せが保たれる人の関係性づくり 便利になるだけでなく、曖昧な部分もつくる 大事なものは「人力で楽しむ」ことをテクノロジーが支援すること 多様性を認め合うまち みんなで改善していける機動力、エネルギーをもった街 市民と観光客双方が日本一満足できる鎌倉 マチの状態の見える化とみんながその情報を活用できる 便利さの追求じゃない、鎌倉の良さを残す街 寝るだけ、じゃないまち 最低限の衣食住が地域の中で叶う暮らし スマートシティ化されてもITなしで生きていける人もいるインクルージョンの街
ざっくり言うとスマートシティって	「アイディア」を解決できる手段 お互いを尊重する(できる)、かゆいところに手が届く町 サードプレイスが生まれる街 つながりのある、人があるがままに生きられる、いい街 みんながワクワクする、みんなが幸せ生きられる やりたいことを素直にできる町 一人一人が主役のまち 鎌倉のことをよく考えた結果 技術を活用した持続的なまち 五感が活きいきするまち 自然と人間が共生する 失ったものを取り戻す町 助けてを共有できる環境 人を中心に大切にしたいまち 未来ヘジャンプの手段 理想へ向かう手段 希望 自分たちの理想の暮らしを叶える手段 市民皆で理想に向かって考え実現できる街 人との交流がある町 自分の生き方を決められる街 ITなど道具を使って人が人らしく生きられる街 若者から高齢の方まで参加出来る街 ダイアローグシティ（対話重視） 行政と住民が同じ側で考えるまち 多様性を認め合う対話から始まる「暮らしとテクノロジーの融合・創造」

創造みらい都市の実現に関する包括連携協定（11月24日締結）

◆ 目的

誰一人取り残さない共生社会の実現に向けて、SFC研究所との連携を深め、官・学での共創関係を構築することが協定の目的です。
さらに、スマートシティ実現に向け、産官学民のマルチステークホルダーで機敏な対話の輪を築くうえで、SFC研究所には、最先端のテクノロジーや様々な知見を持つアカデミアとしての参加を期待するものです。

◆ 協定の相手方

慶應義塾大学SFC研究所

◆ 協定による連携協力事項

以下の4つの事項について連携協力の検討をしていきます。

(1) 次世代のまちづくり（スマートシティ、Fab City※1、SDGs等）

- ・データウォークイベント※2の実施
- ・Fab（スマート）シチズンの育成

Fab Cityに関する取組をととして、データやテクノロジーを活用した市民の地域課題解決力向上を目指します。

- ・資源循環型デザインの研究

(2) 前号に掲げる事項を支える人材育成に関する事項

- ・人材交流の実施

本市職員とSFC研究所所員の相互派遣を行い、本市職員のデータリテラシーの向上及び所員の行政課題への理解を深め、俯瞰的、総合的な課題解決能力を有した人材の育成を目指します。

(3) 本協定に基づく取組の湘南地域への波及に関する事項

(4) その他、「創造みらい都市」の実現に必要な事項

◆ その他

具体的な取組やスケジュールについては、急激に変化する社会情勢に合わせ、臨機応変に対応し、アジャイル方式をとることとします。

※1 Fab Cityとは、地域で製品を造り、地球レベルのネットワークに知識でつながっている新しい地産地消の都市モデルのことです。

※2 データウォークイベントとは、センサーを搭載した「スマートシューズ」で街を歩き、得られたデータをまちづくりに活用するイベントで、協定第一弾の取組として令和2年（2020年）12月～2月に実施します。



スーパーシティ構想の状況について



「スーパーシティ」構想の今後のスケジュール

参考資料

※各自治体の検討状況を踏まえつつ、スケジュールを適宜見直す。

9月1日	改正国家戦略特区法 施行
10月中	国家戦略特区諮問会議
〃	国家戦略特区基本方針 一部変更（閣議決定）
12月目途	スーパーシティ公募
令和3年 2・3月頃	公募締め切り 各応募自治体の評価
春頃	スーパーシティの区域指定（政令閣議決定）

個別提案ヒアリングの目的・方法・実施スケジュール

「構想策定の現状」

- ◆ 令和3年8月を目標にスマートシティ構想の策定作業中
- ◆ これまでに、「DX部会」と「観光・交通部会」が先行して課題の整理を実施
- ◆ 今後、課題解決に必要なテクノロジーの実装に向け、具体的な事業内容や優先順位を検討する予定

「個別の提案を求める目的・理由」

- ◆ テクノロジーの実装に向けた具体的な事業内容や優先順位を検討するための、検討材料としての情報収集をするもの
 1. 課題解決に向けて、どういったテクノロジーが活用できるのか、
 2. テクノロジーの実装に必要な予算規模や事業規模はどの程度か
 3. 市民が求めているものか（今後の市民対話との連携も視野に）

「提案方法」

- ◆ 事前ヒアリングシートの提出 （提案分野、課題に応じたテクノロジーの提案・予算規模等）
- ◆ ヒアリングの実施 （オンライン、事前ヒアリングシート＋詳細資料（自由書式）による提案説明）

「スケジュール」

- ◆ 令和3年1月中 事業者提案ヒアリング
- ◆ 令和3年2月～8月頃 テクノロジー実装に向けた事業化・予算化の検討（令和4年度の事業実施を見据えて）
- ◆ 令和4年4月以降 公共調達（入札・プロポーザル等）・テクノロジー実装に向けた事業の実施

※スケジュール以外に、市の支出の伴わない「協定」等による事業実施や、国事業の公募を見据えた事業案件の組成の可能性もあり

ヒアリングシート（ひな形）

■社名／業種

／

■提案分野（複数選択可能）

- | | |
|---|---|
| ☐ 全体設計・コンサル・アーキテクト | ☐ 観光 |
| ☐ まちづくり総合 | ☐ 防災・防犯 |
| ☐ 移動 | ☐ その他のサービスアプリケーション |
| ☐ 物流 | ☐ データ連携基盤 |
| ☐ 医療・介護 | ☐ 通信網等 |
| ☐ 行政 | ☐ 土地・インフラ開発 |
| ☐ エネルギー・水・環境・ゴミ | ☐ センサー 等アセット |
| ☐ 教育 | ☐ その他（ ） |
| ☐ 支払い・金融 | |

■本市の課題解決につながるテクノロジー活用の具体的提案の概要

- ☐ 観光・交通 ☐ 防災・インフラ ☐ ウェルネス ☐ その他（ ）

■市民や観光客が享受できるメリット

■事業スキーム・業務フロー等（詳細は別紙で添付してください）

■事業費概算・費用の負担者

■連絡先

- ☐ 所属部署 |
☐ 担当者氏名 |
☐ メール／電話番号 |